

登録コード	L1320100	開講年度	2026				
担当教員	佐藤 広英 他			副担当	木村 宏人		
授業科目	文化情報論概論 【EA】						
英文授業名	Cultural Informatics: Introduction						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	木曜・3時限
講義室			遠隔授業科目	該当	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー			現代社会におけるメディアと文化について、データや事例を用いて分析し、その内容を論理的かつ適切に表現できるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			現代社会におけるメディアと文化について、関連する心理学・社会学の理論・概念を説明できるようになる。			
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			現代社会におけるメディアと文化について、人文学的な視点から基本的な検討ができるようになる。			
授業で学べる「テーマ」	キャリア						
全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース						
授業の概要	現代社会におけるメディアの役割と影響について、心理学的視点と文化社会学的視点の双方から検討する。 前半（第1回～第10回）は、さまざまなメディア（マスメディア、インターネットなど）が現代社会における我々の生活や行動におよぼす影響について、心理学の観点から解説していく。 後半（第11回～第15回）は、文化社会学の視点から、メディアを人々の関心が集まり意味づけられていく社会的・文化的基盤として捉える。個人を超えた関係性や共同性が、メディア環境の中でどのように成立しているのかを解説する。						
授業計画	第1回 ガイダンス，文化情報論の紹介（佐藤） 第2回 メディアの変遷（佐藤） 第3回 マスメディアの影響（佐藤） 第4回 マスメディアからSNSへ（佐藤） 第5回 メディアと情報リテラシー（佐藤） 第6回 メディアと超高齢社会（佐藤） 第7回 メディアと匿名性，プライバシー（佐藤） 第8回 メディアと自己（佐藤） 第9回 メディアと健康（佐藤） 第10回 メディアと攻撃行動（佐藤） 第11回 文化とメディア（木村） 第12回 コミュニティ（木村） 第13回 ファンダム（木村） 第14回 趣味縁（木村） 第15回 まとめ，授業アンケート（木村） 定期試験：なし						
成績評価の方法	授業内容にかかわる小テスト・小レポート課題を複数回実施する。複数回の小テスト・小レポート課題の得点をすべて加算して最終成績（100％）とする。						
成績評価の基準	テスト・レポートは、授業内容を現代社会にみられる問題・現象と関連づけて理解できているかを判断する。具体的には以下の通りである。 「卓越している」：授業内容を非常によく理解し、現代社会にみられる問題・現象と適切に関連づけ、優れた考察ができています。 「かなり上にある」：授業内容をかなり理解し、現代社会にみられる問題・現象と関連づけ、適切に考察ができています。 「やや上にある」：授業内容を十分理解し、現代社会にみられる問題・現象と関連づけている。 「水準にある」：授業内容を最低限理解している。						
事前事後学習の内容	事前学習として各回の授業で扱う内容についてシラバスや参考書を読んで予習しておくこと。事後学習として、各回の配布資料をもとに復習を行うこと。 60時間以上の時間外学習が必要となります。						
履修上の注意	前半（第1回～第10回）では、授業はZoomによるライブ授業とオンデマンド動画配信を併用して行う。毎回リアクションペーパーの提出を求める。 後半（第11回～第15回）では、授業はオンデマンド動画配信のみとし、毎回小テストを実施する。						

質問、相談への対応	eALPS内のフォーラム（掲示板）またはリアクションペーパーにて受け付ける。
教科書	指定しない。
参考書	適宜紹介する。